輝くひとみ

第38号
令和8年7月15日 発行
今治市PTA連合会
ホームページアドレス
http://www.imabaricity-pta.jp

令和8年度 今治市PTA連合会 球技大会 開催



令和８年６月21日、今治市 PTA 連合会球技大会が開催され、ソフトボール、男女混合レクリエーションバレーボール、ソフトバレーボールの３競技において、各校 PTA 会員の皆様が親睦と交流を深めました。

ソフトボール大会は波方公園球場・多目的グラウンドにて開催され、16 チームが参加しました。昨年に続き天候が心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、適度な風も吹く絶好のスポーツ日和となりました。各校の先生方やご家族からの温かい声援を受けながら、参加者の皆様は優秀校を目指して熱戦を繰り広げました。和やかな雰囲気の中にも真剣勝負が見られ、会場は大いに盛り上がりました。また、今治ソフトボール協会の皆様のご協力により、円滑な大会運営が行われました。



男女混合レクリエーションバレーボール大会は、大西体育館・大西中学校体育館にて開催され、21 チームが参加しました。試合が始まると、一球一球に集中した白熱したラリーが繰り広げられました。一方で、ナイスプレーには歓声が上がり、仲間同士で励まし合う姿も見られるなど、終始和やかな雰囲気の中で競技が行われました。午後からは参加チームが 3 リーグに分かれて交流試合を実施し、学校の枠を超えた交流がさらに深まりました。

ソフトバレーボール大会は今治市営体育館にて開催されました。各校が熱戦を繰り広げる中、勝敗だけでなく学校間の交流も深まり、笑顔あふれる大会となりました。各ブロックで優秀校を決定しましたが、同率となったブロックでは、優秀校賞として贈呈するソフトバレーボールをかけた勝ち抜きじゃんけん大会を実施しました。毎年恒例となったこのじゃんけん大会は、試合に負けないほどの歓声と笑いに包まれ、会場全体が一体となって盛り上がりました。公式試合終了後も交流試合が続き、多くの参加者が最後までプレーを楽しんでいました。









当日は大きな事故やけがもなく、無事に全日程を終えることができました。競技を通して親睦を深めるとともに、PTA 活動の大切な目的である「つながり」を実感できる一日となりました。

ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後も多くの方々にご参加いただき、PTA の輪がさらに広がっていくことを願っています。

令和８年度 今治市PTA連合会　会長挨拶　長尾正人



日頃より今治市 PTA 連合会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。また、各単位 PTA での様々な活動に対しまして敬意を表します。

今治市PTA連合会の活動は、会長会、球技大会、情報交換会、研修大会等の事業運営をはじめ、PTA カレンダーの作成、広報紙・SNS 等による情報発信、青パト等による見まもりと多岐にわたっていて、各単位 PTA から出向していただいている皆さんで４つの専門部に分かれて担当していただいています。

PTA の役割として、よく「子どもたちのために」ということが言われます。もちろんそのことは当然のことなのですが、その子どもたちのためにということが、単に子どもたちが楽しめる行事ごとやイベントのみに注力されていくのは、少し偏りを感じます。本質を考えたときに、私たち大人が、子育てや教育に対して学びを深めていくことこそが、最終的には子どもたちのためになっていくのではないでしょうか。

子どもたちに一番近いのは、各単位 PTA の皆さんです。しっかりと地域の子どもたちを見守っていってください。そして、今治市 PTA 連合会としては、皆さんがしっかりと学びあえる場所や機会を設えていきます。是非その場に参加して、他校の仲間とディスカッションしたり、講演等を聞いて自らの知識や学びにしていってください。

今治市 PTA 連合会は、今後も子どもたちのみならず私たち大人も一緒になって、幸せな未来を築いていけるような活動や運営をしていきますので、引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

編集後記

日頃より今治市 PTA 連合会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。「輝くひとみ」は例年４ページ構成で年度末に年１回発行しておりましたが、昨年度は掲載内容の充実に伴い、中面を増やして全６ページで発行いたしました。その中で「よりタイムリーに活動の様子をお伝えしたい」という思いから、今年度は４ページ構成を上半期・下半期の年２回に分けて発行することとなりました。

今回はその第１号として、各部の活動紹介や上半期の取り組みを中心にお届けしております。今後も子どもたちの健やかな成長を支える活動や、各校 PTA の皆さまの取り組みを分かりやすく発信してまいります。引き続き、今治市 PTA 連合会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

広報公聴部一同

今治市PTA連合会について

市PTA連合会 HP　市PTA連合会 Facebook

1 本部役員と専門部理事について

本部役員とは、会長･副会長･会計･
監事･区長理事・教員理事・専門部長です。
専門部理事とは、それ以外の役員になります。



総務部が主に担当すること

1 総会の統括

毎年５月に総会を開催し、全ての部が運営に携わりますが、総務部が統括します。開会行事(広報紙コンクール表彰)、議事進行などを担当します。

2 会長会の統括

年に１回以上、市内の単位 PTA 会長を集め情報交換などを行います。全ての部が運営に携わりますが、総務部が会長会の統括をします。開会行事、講演会の進行などを担当します。

3 球技大会の統括、「ソフトバレー」の運営

毎年６月(予定)に球技大会を開催します。全ての部が運営に携わりますが、総務部が統括し、「ソフトバレー」の運営を担当します。また、球技大会開催前の「説明・抽選会」も総務部が主体となって進行します。

4 研修大会の統括

毎年１月下旬(予定)に研修大会を開催します。全ての部が運営に携わりますが、総務部が研修大会の統括をします。開会行事や講演会の進行などを担当します。

5 親子フェスタの運営

親子フェスタの運営を担当します。

6 その他

役員会、総務部会において、上記の各行事などの協議を行います。





総務部は、市 PTA 連合会の球技大会や親子フェスタ、研修大会などの企画・運営を担っています。学校の垣根を越えて集まった多くの仲間と力を合わせ、参加された皆さんの笑顔や「楽しかった！」の声を励みに活動しています。

保護者同士の新たな出会いや交流が生まれるのも大きな魅力です。PTA 活動に参加してよかったと感じていただけるよう、市議としての活動と両立しながら、全力で PTA 活動を楽しみ、盛り上げていきます。 村上奈津子（吹揚小）

広報公聴部が主に担当すること

1 市P連広報紙『輝くひとみ』の発行

部会で、掲載するテーマ(行事)と大まかなレイアウト、記事と写真担当を決めます。行事に参加して、掲載する写真を撮影し記事を作成します。できた記事と写真を業者に送り、広報紙を製作します。
※詳細なレイアウトなどは、業者がしてくれます。

2 市P連ホームページの更新

基本的に、広報紙用に撮った写真や記事などを業者に送り、ホームページを更新します。
※詳細なレイアウトなどは、業者がしてくれます。

3 広報紙コンクールの運営

各学校が発行する広報紙を募集し、コンクール(審査・投票)を開催します。
11 月に学校に募集をかけ、2 月中旬にコンクールを開催します。

4 総会や球技大会、研修大会などの記録写真の撮影

上記のとおり、広報紙作成・ホームページ更新のための写真撮影をします。





広報広聴部では、市 PTA 連合会の活動や魅力を多くの方に知っていただくため、行事や役員会の取材・写真撮影・記事作成を行い、Facebook や広報誌「輝くひとみ」を通じて情報発信をしています。

また、PTA カレンダー表紙絵コンクールや広報紙コンクールの運営にも携わっています。

皆さまに活動の様子が分かりやすく伝わるよう、これからも心を込めて広報活動に取り組んでまいります。
竹之下 乃子（桜井中）

2 役員の任期について

任期は、当該年度の総会から次年度の総会までの１年間です。

3 各専門部の主な役割と担当行事等について

会長・全般副会長・顧問・事務局長以外の役員は、専門部に所属します。各専門部の主な役割などは、次の表のとおりです。

PTA活動支援部 が主に担当すること

1「情報交換会」の運営

毎年秋に情報交換会を開催します。PTA 活動支援部が運営を担当します。

2 球技大会「ソフトボール」の運営

毎年６月（予定）に球技大会を開催します。全ての部が運営に携わりますが、「ソフトボール」の運営を担当します。なお、球技大会開催前の「説明・抽選会」でも、「ソフトボール」を担当します。

3 今治こども安心パトロール隊の活動推進

今治警察署、今治地区防犯協会、今治市 PTA 連合会、今治少年警察協助員等で組織され、今治市 PTA 連合会会長が会長をしています。各小学校区や中学校区に支部があり、ほとんどは各 PTA 会長が支部長をしています。各支部単位で毎日、登下校の時間帯にかかわらず、隊員が各自の自家用車に青色回転灯をつけて、比較的ゆっくりした運転で見回りをしています。こどもたちの安全を確保するために、PTA 活動支援部が中心となって、今治こども安心パトロール隊の活動を推進します。

4 地域活動への参加

コミュニティスクールや今治市の振興にかかる地域活動に積極的に参加します。

5 その他

役員会、PTA 活動支援部会において、上記の各行事などの協議を行います。





当部では、子どもたちの安全を守り、地域や学校の絆を深める活動を行っています。情報交換会や親睦を深める球技大会（ソフトボール）の運営をはじめ、地域の安全を見守る「今治こども安心パトロール（青パト）」の巡回、地域活動への対応など、多岐にわたり活動しています。これからも横のつながりを大切にしながら、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりと、温かい PTA 活動の支援に努めてまいります。

京極 征樹（南中）

家庭教育研修部 が主に担当すること

1 PTAカレンダーの発行

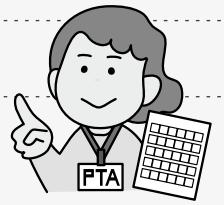
8 月に編集委員会を開催し、掲載するテーマと担当者を決めます。その後、各担当者が 11 月下旬までに、掲載するテーマの原稿を作成します。できた原稿や写真を業者に送り、カレンダー校正原稿を作成します。校正原稿を委員で修正・確認し、カレンダーを完成させます。完成したカレンダーは春休みに学校に送付します。

2「PTA カレンダー表紙絵コンクール」の運営

10 月の役員会に合わせ、表紙絵コンクールを実施し、カレンダーの表紙絵を決定します。

3 球技大会「男女混合レクリエーションバレー」の運営

毎年６月（予定）に球技大会を開催します。
全ての部が運営に携わりますが、「混合レクバレー」の運営を担当します。
なお、球技大会開催前の「説明・抽選会」でも、「混合レクバレー」を担当します。



4 その他

役員会、家庭教育研修部会（カレンダー編集委員会）において、上記の各行事などの協議を行います。



家庭教育研修部では主に「PTA カレンダーの編集、発行 球技大会 男女混合レクリエーションバレー運営 などを担当しています。PTA カレンダーでは、これまで作成いただいた先輩方のカレンダーを参考に、編集委員と共に これまで同様、子どもたち、先生方、保護者の皆様に興味をもっていただける物をつくりたいと思います。

至らぬ点が多々あると思いますが、部員一同力を合わせて参りますので、１年間、よろしくお願いします。

後藤 克巳（上浦小）

――今こそ、ＰＴＡを問い直そう！　大三島小学校　井原 光明 先生



ＰＴＡ不要論が拡散し、全国では組織の解体や会員の脱会など動きも見られています。
そもそも、ＰＴＡとは何でしょうか？ＰＴＡは本当に不要なのでしょうか？今治市ＰＴＡ連合会の担当校長に「今、ＰＴＡを問い直す」のテーマで、御寄稿いただきました。

◆ はじめに ―「勝敗」ではない「勝利」―

私にとって最後の市Ｐ連球技大会が終わりました。参加した 11 回それぞれに思い出があり、そこで紡がれた「絆」は今も私を支えてくれています。

現在、校長をつとめている学校の PTA ではここ数年間、参加が途絶えていましたが、今年度は保体部長さんの熱意により、混合レクバレーのチームが結成され、教職員も加わりました。練習を重ねるたびに、互いを呼ぶ声と笑顔が弾み、心の距離が縮まり、絆が強くなっていくのを感じました。その姿から、「勝ち負け」以上の大きな財産を得ることができたと確信しました。

大会の余韻に浸る一方で、昨今の「ＰＴＡ不要論」が頭をよぎり、今こそＰＴＡの価値を問い直したいと考えました。



◆ あなたの学校は、ＰＴＡ？それともＰＰＡ？

ＰＴＡは、「Parent（保護者）と Teacher（教師）による Association（組織）」の頭文字をとったものです。子どもたちの成長を支えるために、保護者と教職員が対等な立場で協力し合う団体であり、学校組織の一部ではありません。

ところが、現状はどうでしょうか。いつの間にか、ＰＰＡ＝「Parent（保護者）の Procedure（学校との手続き）のための Association（組織）」と化してはいないでしょうか。大切なパートナーシップが見失われつつあるのではないかと危惧しています。

◆ 「組織の維持」が目的になっていないか？

「組織や役職の維持」が優先され、「活動の目的」や「運営の知恵」は伝わらず、「大変な仕事」という負担感ばかりが押し付けられてはいないでしょうか。

誤解を恐れずに言えば、ＰＴＡは独立した団体であるからこそ、存在し続けること自体には意味はありません。「組織が何をしてくれるのか」と期待して待つだけであれば、不要な存在なのかもしれません。しかし今、私たちが問い直すべきは、「組織を生かして何を実現できるか」ではないでしょうか。



◆ 「教育は人なり」という信念

私は、この答えを探るヒントとして二つの言葉を思い浮かべました。

一つは、教育長の小澤先生が常に説かれている「教育は人なり」です。

どれだけ DX が進み、黒板がデジタルに変わっても、教育の主役は人です。効率を求めるあまり、教師と保護者が互いを「機能」としてしか見なくなったとき、学校から温かな光は失われます。

もう一つは、政治学者パットナムの『われらの子ども』です。

彼は、人々のつながりが希薄化し荒廃していく社会において、学校を支えたのは、保護者と教師が顔の見える関係で信頼し合う「人と人とのつながり」であったことを、大規模な調査に基づいて示しました。いわゆる社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の考え方です。「誰かの子ども」ではなく、「われらの子ども」という認識に立つことの重要性が示されています。

―子ども、保護者、教師が顔を合わせ、関わりを深め、信頼し合い、ともに育ち合う―

これらの言葉は、教育において大切にすべき本質を私たちに教えてくれています。



◆ 子どもの成長を願う「おかげさま」のパートナーシップ

SNS で広がる「ＰＴＡ不要論」は、本来の「人と人とのつながり」を感じられるＰＴＡの姿から遠ざかり、形骸化した「ＰＰＡ（手続きの会）」になりつつあることへの警鐘とも言えます。

私事ですが、役職定年という節目を迎える今、若い先生方や保護者の皆様にどうしても伝えたいことがあります。

「非効率」なことを無理に続ける必要はありません。しかし、保護者と教師が手を取り合い、子どもの未来を共に語り合う「温かな人間関係」までを効率化してはいけません。

学校に求められている働き方改革とは、業務の効率化や時短だけではなく、保護者と教職員が笑顔でつながる関係性を築くことです。その「笑顔の数」こそが働きがいにつながり、教師としての力量を示す大切な指標の一つであると感じています。

◆ おわりに ―学びを支える教育環境としてのＰＴＡ―

今治市の単位ＰＴＡには、それぞれに素晴らしい取り組みがあります。時代とともに活動内容は変化しても、子どもにとって「よき教育環境」であることを目指す姿勢は変えてはなりません。今治市ＰＴＡ連合会の会長様はじめ役員の皆様方も、それらを受け継ぎ、時代にマッチさせながら、未来へバトンをつなぐために熱心に活動されている姿には頭が下がるばかりです　。

子どもたちは、変化の激しい予測困難な時代を生きていきます。その子どもたちに、日々、向き合っている保護者と教師のまなざしや関わりこそ、生きた教科書であり、学びを支える土台となるのです。

今こそ、保護者と教師が「おかげさま」の心を大切にし、ともに支え合うパートナーシップを育んでいくことの重要性を再確認するときではないかと考えています。